

氏名： 池田 全之  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 准教授  
学位： 博士(教育学) / Doctor (pedagogy)  
専門分野： 教育哲学 / Educational Philosophy  
教育思想史 / History of the Theory of Human Formation  
E-mail： ikeda.takeyuki@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

教育哲学 / ドイツ観念論 / シェリング, フィヒテ / フランクフルト学派 / ベンヤミン, アドルノ  
Philosophy of Education / German Idealism / Schelling, Fichte / Frankfurt school / Benjamin, Adorno

#### ◆主要業績 総数 (3) 件

- ・「〈主体〉化の系譜学から新たな自己関係へ？身体をめぐるフーコーの言説に準拠して」, 教育哲学会編『教育哲学研究』第99号, pp.12 - 124, 29年5月
- ・「テキストの〈生命〉はいかに継受されてきたのか？『教育哲学研究』5年間にみられる人物研究の視角変化」, 教育哲学会編『教育哲学研究』1号記念特別号, pp.13 - 12, 29年11月
- ・「労働的人間形成の論理とそのアクチュアリティについて？意識の自己形成をめぐる18年前後のドイツ思想の一断面」, 平成19?21年度科学研究費補助金成果報告書(研究課題名:「いのちの尊厳」教育における生命科学的思想の位置価値と育成課題に関する実証的研究: 研究代表者: 増淵幸男: 課題番号: 1753592), pp.1 - 22, 21年3月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

29年度は、ドイツ観念論期の意識の形成理論を検討した。具体的には、まず、ドイツ観念論期の自己意識論の典型としてフィヒテの前期知識学の意識理解を明らかにした。それに続いて、その発展形の一つとして、ヘーゲルの『精神現象学』の自己意識章に見られる、労働を介しての意識形成モデルを踏まえたうえで、もうひとつの発展の形としてノヴァーリスの世界認識を解明した。そしてそれらが、現代的人間形成観に示唆するものを検討した。

In 2009, I investigated the theory of the formation of consciousness during the era of German Idealism. Concretely speaking, at first, I considered about Fichte's texts of early Science of Knowledge as typical theory of formation of consciousness in this era. and next, I made clear Hegel's understanding of human formation through labour, which we can see in Phenomenology of Spirit, as one developmental pattern of Fichte's theory. and as another developmental pattern, I interpreted the fragments of Novalis. After these considerations, I inquired what these theory indicate for our educational situation.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

29年度は、学部段階の授業においては、フーコーの権力論、アドルノの非同一性の哲学、カントとシェリングの道徳思想、ハイデガー、メルロ＝ポンティ、デリダの生命観を、現代の教育問題と絡めながら概説した。大学院段階では、フィヒテ、ヘーゲル、ノヴァーリスらを中心に、ドイツ観念論期の意識の自己形成観を概説した。演習においては、フーコーの『知の考古学』を取り上げた。

(For undergraduate course)

I treated outline of Foucault's Power theory, Adorno's theory of dialectic of enlightenment, Kant's and Schelling's ethic, and the understanding of Life of Heidegger, Merleau-ponty and Derrida, relating these theory to our educational problems.

(For graduate course)

I focussed on the diversity of theory of the formation of consciousness (especially, Fichte's, Hegel's and Novalis's theory) in the era of German Idealism.

In seminar, reading Foucault's Archeology of Knowledge, I explained the method of his early philosophy.

## ◆研究計画

21年度は、1950年代西ドイツの思想的布置状況を明らかにする作業に着手する。つまり、ナチスの過去の忘却の論理として、後期ハイデガーの存在史思想を取り上げる。そして、その対抗軸としてヤスパースの歴史哲学を踏まえ、彼らに共通した過去への向き合い方の特徴として、「本来的な過去」への追慕という構造を浮かび上がらせる。その上で、そうした発想法のはらむ問題点を、晩年のフーコーのパレーシア講義を踏まえながら浮かび上がらせたいと考えている。

## ◆メッセージ

教育思想研究というと、難しいとか現実から遊離していると一般には考えられています。たしかに教育思想の研究の場合には、二次文献を参照しながら、地道に昔のテキストを読み進めることが基本になります。けれども、そうした読解も、現代についての先鋭な問題意識がなければうまくいくものではありません。古典的なテキストを使いながら「今」を考えることが大切なのです。ですから、自分の狭い関心にだけ囚われるのではなく、視野を広く持つようにしてください。